

## アカショウビン *Halcyon coromanda* (Latham)

### 【選定理由】

本来愛知県は本種の生息密度が低い県ではあるが、近年観察者人口が増加したことにより、山地部各所での記録は増えている。しかし、県内ではほぼ毎年安定して生息の確認できる場所は限られており、ほとんどの場所では1年だけのことが多い。以前は渡りの季節の夜間、人工物との衝突で拾得や保護される個体の報告例も数多くあったが、現在ではほとんどなくなっている。

### 【形態】

全長 27cm。赤くて大きな嘴が目立つ。上面は赤褐色で下面は淡褐色、腰の中央に光沢のある水色の縦線がある。脚は赤色。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

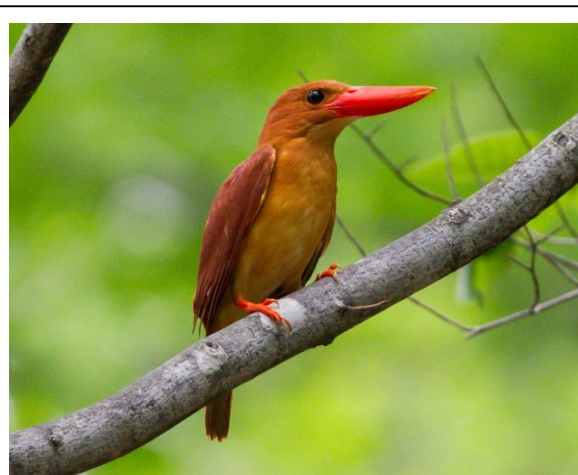
夏鳥として標高およそ 100m 以上の山地に飛来する。春秋の渡りでは、平野部や丘陵地、半島などでも記録されることがある。

#### 【国内の分布】

日本には2亜種が分布し、亜種アカショウビン *H. c. major* は北海道から九州に夏鳥として飛来する。

#### 【世界の分布】

インド東北部、ネパール、バングラデシュ、ミャンマー北部、マレー半島、中国、台湾、朝鮮半島南部に分布し、北方のものはフィリピン、マレー半島、スマトラ、ジャワなどに移動する。8亜種にわけられる。



島根県, 2012年7月21日, 杉山時雄 撮影

### 【生息地の環境／生態的特性】

4月下旬から飛来が始まり、10月中には飛去する夏鳥である。繁殖は5月下旬から7月と思われ、落葉広葉樹林から針葉樹林まで幅広い植生で繁殖するが、サワガニやカタツムリ、大型昆虫、小型の魚類や両生類、爬虫類などを捕食するので、繁殖には湿潤で薄暗くこうした生物が生息する環境が必要である。容易に巣穴を空けられる朽ち木やスズメバチの巣、放置された茅葺屋根などに穴を穿って営巣する。キョロロロロ…と次第に小さくなる声で鳴き、飛びながら鳴く時はキョロッ、キョロッ、キョロッとしり間を空けて鳴き、渡りの季節には鳴きながら渡ることもある。通常は姿を見るのが難しいが、繁殖期には希によく目立つ場所に止まって鳴くこともある。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県では生息密度がかなり低いので、ほぼ毎年繁殖期に生息が確認できる場所はごく限られている。その他の場所では、同じ場所で連続して観察できるのは長くても5年程度で、ほとんどの場所では1年から数年で確認できなくなっている。2000年代半ばまでは、主に秋の渡りでガラス等への衝突による保護鳥や落鳥として報告される例も多かったが、近年はほとんどなくなっている。ガラスや電線などに衝突し易い性質を持った個体は、全て淘汰されてしまったのかもしれない。

### 【保全上の留意点】

三重県や静岡県と比較すると、愛知県は生息密度が低い。人工林が多く、朽ちた樹木が少ないことが要因と思われ、管理の困難な場所にある人工林は針広混交林などに変遷させるべきである。

### 【特記事項】

本種に限らず、生息密度が低い場合はテリトリーを主張する必要が低く、囀りの頻度が下がるために、本種のように人目につき難い種ではさらに生息の確認が困難である。

### 【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.102. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)